

ホームステイに 参加しませんか？

英語を喋りたいと思ったことが、一番の参加動機でした。高校3年生だったので、先生には怒られましたが、結果的には、このホームステイプログラムに参加したことが受験にも役立ちました。現地ではなかなか英語が通じなかったのが悔しかったので、勉強してまた行きたいと思っています。

池田奈穂



母に行ってみたらと言われたことが後押しとなり、参加を希望しました。このプログラムに参加したことで、もっと英語を話したいと考えるようになりました。この春から外国語学部に進学しますが、ホームステイプログラムに参加したことが現在の進路につながっています。これからもっと話せるようになって、また行きたいです。

園田朱音

募集記事を見て、海外への興味もあり、参加を希望しました。ホームステイは、英語が苦手と言葉が通じないこともあり苦労しましたが、周りの助けもあり充実した日々を送れました。考え方や文化の違いなど実際に経験できたことは私にとってとてもプラスになりました。日常では体験できないことをさせてもらい本当に良かったです。感謝しています。

松村渚沙

高2の夏に参加し、今までにない文化、言語などさまざまな経験をする事ができました。実際にアメリカを訪れ、自分の英語力の未熟さにも気づき、世界観がとてつもなく広がりました。これまで、あまり積極的でなかった私ですが、このプログラムを通して、積極的に行動できるようになりました。他では学ぶことのできないことを学ぶ事ができ、本当に参加して良かったです。

嶋田鈴奈



海外は初めてでしたが、今回のプログラムに参加したことで、文化が違って、仲良くなれることや、言語がうまく伝えられなくても通じ合えるものがあるんだと気付くことができました。最後のホストファミリーとのお別れは、とてもつらかったです。あと、アメリカのパーティーは規模が大きくて、とても楽しかったです。

吉川響

どこまでも続く地平線。山脈が続く日本では見ることがない光景でした。ネブラスカはアメリカの中央辺りに位置し、このプログラム以外で行く機会に巡り合うことはあまり無いでしょう。私は高1の夏にアメリカへ行きました。“実際に”行くことの重みは予想以上でした。少人数で体当たりのこの旅は、他にない特別なチャンスでした。

野田優子

海外ナメてました。参加者の中で一番年下だったので、何かしなくちゃという思いがありましたが、アメリカでパーティーのときに踊るダンスの練習を、みんなに教えることができてとても良い経験になりました。ホストファミリーは、言葉が通じなくても、翻訳サイトを使って調べてくれて良かったです。

豊岡祐実

町では、国際的な視野を持つ人材育成を目的に、中高生をアメリカに派遣するホームステイプログラムを実施しています。前回の参加者に感想を聞いてみました。

海外に興味があって、参加を希望しました。向こうでの体験も良かったのですが、日本に帰ってきてからも、SNSでお互いの状況がわかることができ、また、ホストファミリーからクリスマス・カードやバースデー・カードを送ってきてくれて、交流が続いています。

嶋田蘭

友達がい전에このプログラムに参加していて、知ってはいましたが、行けたらいいなあぐらいで思っていました。他の同様のプログラムよりも参加がしやすく、行くことができて良かったです。アメリカには折り紙や折り方の本を持って行きましたが、ホストファミリーの子もたちに教えるのはなかなか難しかったです。

一山結い

■派遣先 アメリカ合衆国ネブラスカ州ヘイスティングズ市(町姉妹都市)

■募集人数 中学生・高校生13人程度

■派遣期間 7月18日(土)~29日(水) 11泊12日(予定)

■助成金 派遣経費の1/2以内を助成 ※参考:一昨年度の一人あたりの助成金は約16万円でした。

■主な参加資格

- ①町在住で、このプログラムに参加したことがない人
- ②「事前説明会(2回程度)」、「事前学習会(5回程度)」と「帰国報告会」に全て参加できる人
- ③帰国後に国際交流活動などまちづくり活動に積極的に参加できる人 など

■申込方法

- ①申込書
- ②保護者の同意書
- ③作文(参加動機を原稿用紙2枚程度にまとめたもの)

を総合政策課にご提出ください。

■申込期限 4月20日(月)

■問い合わせ

役場総合政策課 地域づくり推進係
☎ 096(293)3118

THE GOOD LIFE (ザグッドライフ)

JAPANESE STYLE

言葉を勉強していると、さまざまな面白い発見があります。日本語を学んでいる私にとって、その一つが「よろしく

お願いします」です。これは英語で、「Please treat me well」になります。しかし、これを説明抜きで言えば、相手は混乱したような表情であなたを見るはずですが、でも「よろしくお願いします」は、すごくいい事を伝える言葉に違いありません。人と初めて会う時だけではなく、友達が演奏を観に来てくれる時とか、会議やレッスンなど、何か協力をする時にも必ず使います。最初は、使い方が難しくて分かりにくかったけど、この2年半、それを聞いてきて、私も「よろしくお願いします」という気持ちを表していきたいと思います。でも、英語で表現する場合、situationによって言い方が変わるから、的確に言うことは難しいですね。でも言うべきだ！



今月のブレイクさん
(熊本朝日放送(KAB)ロビーにて)

日本人にとって、この言葉は当たり前なので深く考えなくていいかもしれないけど、言葉を多く使うとその意味が下がる可能性はあります。しかし、外国人として、日本人同士が「よろしくお願いします」と言いあっているのを見て、日本人の礼儀正しさや互いを尊敬しあう様子がfreshでいい印象です。私が日本での生活が好きな理由の一つです。アメリカに帰っても真似したいですね！

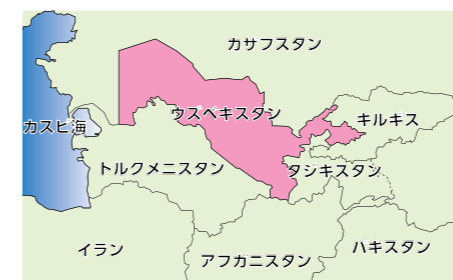
ウズベキスタンからアッサロームアレイクム

大津町の皆さん、アッサロームアレイクム！中央アジア、ウズベキスタンからこんにちは、大塚麻里子です。私は現在、JICA 青年海外協力隊員(職種:青少年活動)として、ウズベキスタンで活動しています。今回から広報おおづにウズベキスタンの今についてレポートすることになりました。これから毎月レポートしていきますので楽しみに！



ウズベキスタンの衣装でうちわを持つ大塚さん

さて、私がウズベキスタンでどんなことをしているかということ、ブハラ州にあるウズベキスタン日本人材開発センターで日本語と日本文化を通じ、国際交流や異文化理解の楽しさを伝える活動をしています。2014年1月に赴任し、もうすでに1年以上が経過し、ウズベキスタン



中央アジアに位置するウズベキスタン共和国

の習慣に慣れ、文化に溶け込み、今ではすっかりブホロリク(ブハラの人のこと)になっています。ウズベキスタンという国、イスラム教の習慣や考え方や人々の暮らし、そして私のセンターにやってくる日本を大好きな学生たちのことなど、私の日々の体験やリアルな感動をお届けしたいと思います。そして、皆さんにとって遠く未知の国であるウズベキスタンの魅力を少しでも知ってもらえたらと思います。